

## 浦内川：日本一生物多様な水路

浦内川は、沖縄県で最も長い川で、季節やその他の現象で変わるが、長さ 19km、幅 200m、深さ 15m にもなる。浦内川の特徴は大きさだけではなく、日本全土で最も生物が多様な川であり、国内の 1 割の魚、400 以上の種が生息し、そのうちの 40 種以上は絶滅の危機に瀕している。河岸にあるマングローブ林は餌となる植物プランクトンが豊富で、外敵から身を守る場所と稚魚が成長する最適な環境となっている。

海から 8km ほどが航行可能で、その先の川は岩や滝が多く、ボートが進めない。上流へ行くと汽水域から淡水域へなり、マングローブ林も広葉樹の亜熱帯ジャングルと変化する。海から 6km ほど上ると、稲葉と言う村があり、1970 年頃に廃村になるまで米を作り、炭鉱で繁栄していた。電気もなく、稲葉の子供たちは山道を通学のため往復 12km 歩いていた。